

利根川・渡良瀬川合流域の水場景観

利根川・渡良瀬川合流域の水場景観



概要

板倉町には利根川と渡良瀬川との合流点に形成された低湿地が展開しており、「水場(みずば)」と称される。この辺りは古来よりオオミズ(注釈1)が多い地域であり、害と益を受けながら、生活を営むための様々な工夫が行われてきた。水防避難のために建築された「水塚(みづか)」や避難具の「揚舟(あげぶね)」、低地農法としての「川田(かわだ)」、薪(たきぎ)をとるための「柳山」など多くの知恵が今に息づいている。
 (注釈1)昔の人は、河川の氾濫を水害と言わず「オオミズ」と称した。氾濫により土壌に栄養分が行き渡り次の年が豊作となったことなど、洪水が害だけをもたらすものではなく利益も与えてくれるものと考えられていた。

場所

群馬県邑楽郡板倉町
 大字海老瀬の一部
 大字下五箇の一部
 大字板倉の一部



取り組み

重要文化的景観「利根川・渡良瀬川合流域の水場景観」の保護。柳山に挿し木を実施し、現在の景観の保存を図る。調査に基づき、見慣れた風景であるものの、そこには先人たちが作ってきた歴史があることを説明することで、土地に刻まれた歴史や風景の中に隠れた先人の知恵などの普及・啓発を行う。

| 自然拠点 | | | | 文化拠点 | | | | |
|------|----|-------|----|------|----|-------|---|-------|
| 景観 | 生物 | 地物・現象 | 公園 | 史跡 | 行事 | 産業・伝統 | 食 | 交流・学習 |